

# しとどの窟・城山ハイク

～ 2015年忘年山行～

日程：2015年 12月6日

メンバー：7名

報告：U

湯河原駅・日曜朝9時発の幕山公園行きバスは超満員、鱒寿司の切り身もかくやというほどの鮎詰め状態です。快晴無風で暖かく絶好のハイキング&クライミング日和ですが、私の胸中は期待と不安とがせめぎ合い、ギュー詰めのバスのごとく揺れ動いておりました。シリウスの皆さんと初めてお会いする体験山行。ちょっと緊張……。

幕山公園に降り歩き始めてすぐ、Sさんが朗らかな笑顔で話しかけて下さり、隣を歩いて下さいました。心細さを吹き飛ばしてくれる素敵な笑顔です！そして集合場所で自己紹介させていただいた時の、皆さんの穏やかな笑顔が印象的でした。

ハイキング班で一緒にさせていただいたのは、Fさん、Oさん、Nさん、S(M)さん、S(S)さん、Hさんご夫妻。幕山公園から一の瀬に向かうコースに他のハイカーの姿はなく、山ごと貸し切りのようです。足の速いHさんが蜘蛛の巣払いされた快適な路を、Nさん、Oさん、Fさんと一緒に、落ち葉を踏みしめながら、ゆっくりと歩いていきます。



初冬の柔らかな陽射しのなか枯葉がはらはらと舞い降りる、優しい時間です。会の生い立ちや山の古書、蔵書の活用の話など伺い、傍に咲く寒椿や紫式部の実を愛で、葉を落とした広葉樹林帯の明るい南斜面に腰を下ろし、甘いお菓子をご馳走になり……。途中、「目が悪くなると足の置き場がよく見えなくて……」と仰るOさんから、幕山の登攀壁と紅葉、相模湾、その先に霞む大島・神津島と次々案内をいただきました。「良く見えていらっしゃるではありませんか」と申したら、「大きなものは良く見える！（笑）」

紅葉の残る明るい樹林帯

笑い声の絶えない山行で、あっという間に本日のメイン「しとどの窟」に到着。平家に大敗を喫した源頼朝が主従わずか7人で山中に逃れ潜伏し、九死に一生を得た洞窟だそうです。時は1180年。歴史は全くもって不出来の私ですが、鎌倉幕府樹立の十数年前の出来事だったのでですね。洞窟内に安置された20体ほどの石仏を背景に、Oさんのカメラで記念写真を撮ったのですが…  
…怖いものが写り込んでいませんように…  
…。



しとどの窟

椿台では、相模湾を眺めながらのんびりと昼食休憩。食後、Nさんから素敵なプレゼントをいただきました。「今朝発送したばかりよ」のジャーナル最新号。いの一番にいただけてしまいました。

眼下に相模湾を望む土肥城址から先は、黄葉と山茶花のトンネルをくぐりながらのなだらかな下り路です。S(S)さん、S(M)さんに知らない花の名前を教えていただき、お手製リースの画像もを見せていただいて、これぞ山ガール山行の鑑！ 紫陽花の郷を抜け、道沿いの斜面に温州みかん、夏みかん、柚子、レモン、キウイと果実がたわわに実る路地に出たら、お庭拝見をしながら（落ちた蜜柑を拾い皆でお味見しつつ……）歩き、駅に戻りました。

その後独歩の湯で足をほぐし、懇親会へ。「ご一緒いただけますか？」と柔らかな笑顔で誘って下さったS(M)さんのご配慮がありがたく、心に沁みました。私もそんな一声を寄せられるように齢を重ねていきたいと、今もよく思い返します。

懇親会でFさんのお隣に座らせていただき、この和やかな優しい会で、皆さんのような柔らかな物腰や心の配りかた、素敵な一言などを山の技術とともに身に付けていきたいと思い、持参した入会申込書をお渡ししました。その後がびっくり仰天！「実はこの場に幹事が揃っていますので、次回幹事会を待たずにいま承認しましょう！」とのお言葉です。そして皆さんの溢れるような笑顔と盛大な拍手に包まれ二度びっくり！ 懇親会の短い間だけご一緒したAさん、Nさんも満面の笑みで迎えて下さり、ただただ感謝の一言でした。

……とここまで書いてみて、山行報告ではなく完全に会の感想のような雑記になってしまったのですが、これから先もきっと、この冬の陽の温かさとともに、皆さんの笑顔を感謝しつつ何度も思い返すことになるであろう特別な1日となりました。リスクも喜びも分かちあう山の仲間として素敵な会に迎えていただけたことを、感謝しております。まだまだ経験の浅い未熟者ですが、皆さま、これからどうぞよろしくお願いいたします。

#### <コース>

湯河原駅～幕山公園～しとどの窟～城山山頂（標高 563m）～湯河原駅～温泉場